

ことだ  
言出しは誰が言なるか 小山田の

おやまだ

なわしろみず  
なかよど

苗代水の中淀にして

万葉集巻4の716 紀郎女

早乙女に薪きし種芽の身は山田

田植えの水は堰を切り増す

せき

令和五年五月二十九日

大中臣正比呂



あきのおおきみ  
きいらつめ  
おおもものすくねやかもち  
一首目は、安貴王の妻となった紀郎女の大伴宿禰家持への返歌である。

「声を掛けたのは貴男の方なのに、最近どうしてるのよー」という恨みの歌である。小山田とは何処か。大伴家持が新都に就いた時に、身は山田

みわやま

三輪山の裾野の田に居たなら、旧都は三輪山に見える九州の地である。